

文献

序文

総合診療専門医の教育

- ・ 専門医プログラム整備基準(内科領域). https://www.jstage.jst.go.jp/article/naika/104/9/104_2046/_pdf (2019.3.28アクセス)
- ・ 総合診療専門医研修プログラム整備基準. <http://www.japan-senmon-i.jp/program/doc/comprehensive170707rev2.pdf> (2019.3.28アクセス)

Part 1 ▶ 全身性症候

1. ショック

- ・ 小川 龍：ショックの重症度判定法. 救急医学 14：1332-1334, 1990.

2. 不明熱

- 1) Petersdorf RG, et al. : Fever of unexplained origin : report of 100 cases. *Medicine (Baltimore)* 40 : 1-30, 1961.
- 2) Durack DT, et al. : Fever of unknown origin--reexamined and redefined. *Curr Clin Top Infect Dis* 11 : 35-51, 1991.
- 3) Weinstein MP, et al. : The clinical significance of positive blood cultures : a comprehensive analysis of 500 episodes of bacteremia and fungemia in adults. I. Laboratory and epidemiologic observations. *Rev Infect Dis* 5 : 35-53, 1983.
- 4) Aronson MD, et al. : Blood cultures. *Ann Intern Med* 106 : 246-253, 1987.
- 5) 田村和夫：成人の不明熱. 金澤一郎, 他(編)：今日の診断指針第6版, 10-12, 医学書院, 東京, 2010.
- 6) 石塚達夫：不明熱. 林 純(監修)：総合病院診療医学 I 症候編, 67-70, 大道学館出版部, 福岡, 2017.

3. 関節症状

- 1) 石塚達夫：関節痛, 関節炎. 林 純(監修)：総合病院診療医学 I 症候編, 57-59, 大道学館出版部, 福岡, 2017.
- 2) 宮原寿明：関節炎へのアプローチ. 日本リウマチ学会生涯教育委員会(編)：リウマチ病学テキスト1版, 35-47, 診断と治療社, 東京, 2010.
- 3) Tan EM, et al. : Range of antinuclear antibodies in "healthy" individuals. *Arthritis Rheum* 40 : 1601-1611, 1997.
- 4) 織田弘美：関節痛. 金澤一郎, 他(編)：今日の診断指針第6版, 234-238, 医学書院, 東京, 2010.

4. 食欲不振・体重減少

- 1) Wallace JL, et al. : Involuntary weight loss in older outpatients : incidence and clinical significance. *J Am Geriatr Soc* 43 : 329-337, 1995.
- 2) 日本甲状腺学会：甲状腺疾患診断ガイドライン2013. <http://www.japanthyroid.jp/doctor/guideline/japanese.html> (2019.3.28アクセス)
- 3) 日本糖尿病学会(編著)：糖尿病診療ガイドライン2016. 南江堂, 東京, 2016.

- 4) 福田能啓：吸収不良症候群. 静脈経腸栄養 27 : 5-17, 2012.
- 5) Hisamichi S, et al. : Mass screening for colorectal cancer in Japan. Cancer Detect Prev 15 : 351-356, 1991.
- 6) 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究班：神経性食欲不振症のプライマリケアのためのガイドライン, 2007. http://www.edportal.jp/pdf/primary_care_2007.pdf (2019.3.28 アクセス)
- 7) 甲村弘子：クリニカルカンファレンス(生殖内分泌領域); 2. 思春期の女性医学 4) 摂食障害. 日産婦誌 59 : 461-466, 2007.
- 8) 河手久弥, 他. : 副腎皮質機能低下を早期診断・治療するために. 日内会誌 103 : 878-885, 2014.
- 9) Ito Y, et al. : Efficacy of single-voided urine metanephrine and normetanephrine assay for diagnosing pheochromocytoma. World J Surg 22 : 684-688, 1998.

5. 意識障害

- ・ 卜部貴夫：意識障害. 日内会誌 99 : 1082-1089, 2010.
- ・ 水野美邦, 他. : 意識障害. 水野美邦(編)：神経内科ハンドブック 鑑別診断と治療 第4版. 142-161, 医学書院, 東京, 2010.
- ・ 足立智英：意識障害. 日本病院総合診療医学会(編)：病院総合診療医学 I 症候編, 第1版, 14-16, 大道学館出版部, 福岡, 2017.

8. リンパ節腫脹

- ・ 福井次矢, 他(監訳)：リンパ節生検および脾腫. ハリソン内科学 第4版, 396-402, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2013.
- ・ 木崎昌弘：リンパ節腫大, 肝脾腫の診察と鑑別. 木崎昌弘(編)：カラーテキスト血液病学 第2版, 83-87, 中外医学社, 東京, 2013.
- ・ 木崎昌弘：リンパ節生検. 木崎昌弘(編)：カラーテキスト血液病学 第2版, 122-131, 中外医学社, 東京, 2013.

10. 筋力低下

- ・ 小松嘉人, 他. : 腹痛. 福井次矢, 他(編)：内科診断学, 549-553, 医学書院, 東京, 2016.
- ・ 野口善令：臨床推論のポイントー腹痛一. 野口善令(監)：カンファレンスで学ぶ臨床推論の技術, 138-139, 日経BP社, 東京, 2015.

12. 浮腫

- ・ 石井義洋：卒後10年目総合診療内科医の診断術. 中外医学社, 東京, 2015.
- ・ 谷口信行(編)：日常診療に欠かせない腹部エコー検査. レジデントノート 5 (4) : 2003.
- ・ 徳田安春(編)：診断力を強化する！症候からの内科診療. レジデントノート 13 (2) (増刊) : 2011.
- ・ 福井次矢, 他(編)：内科診断学第3版. 医学書院, 東京, 2016.
- ・ Henry JA, et al. : Assessment of hypoproteinaemic oedema : a simple physical sign. Br Med J 1 : 890-891, 1978.

13. 急性発疹(皮疹)

- ・ 石井義洋：卒後10年目総合内科医の診断術. 中外医学社, 東京, 2015.
- ・ 日野治子：発熱と皮疹でわかる内科疾患. medicina 43 : 1660-1665, 2006.
- ・ 金城光代, 他(編)：ジェネラリストのための内科外来マニュアル 第2版. 医学書院, 東京, 2017.

Part 2 ▶ 臓器症候別

1. 頭痛

- 1) 慢性頭痛の診療ガイドライン作成委員会(編):慢性頭痛の診療ガイドライン2013. 医学書院, 東京, 2013.
- 2) 日本頭痛学会・国際頭痛分類委員会:国際頭痛分類 第3版 日本語版. 医学書院, 東京, 2018.
- 3) 濱田潤一:頭痛診療と診療アルゴリズム. 鈴木則宏(編):頭痛診療ハンドブック, 23-30, 中外医学社, 東京, 2009.
- 4) 濱田潤一:頭痛. medicina 41:592-596, 2004.
- 5) Evans RW:Diagnostic testing for migraine and other primary headaches. Neurol Clin 27:393-415, 2009.
- 6) Dowson AJ, et al.:Establishing principles for migraine management in primary care. Int J Clin Pract 57:493-507, 2003.
- 7) Detsky ME, et al.:Does this patient with headache have a migraine or need neuroimaging?. JAMA 296:1274-1283, 2006.
- 8) Dodick DW:Clinical clues (primary/secondary). The 14th Migraine Trust International Symposium, London, 2002.
- 9) 伊藤康男, 他.:注目の頭痛, ライフステージと頭痛 高齢者の頭痛. 日本臨牀 75:945-949, 2017.

2. 眩暈

- ・ Newman-Toker DE, et al.:Imprecision in patient reports of dizziness symptom quality: a cross-sectional study conducted in an acute care setting. Mayo Clin Proc 82:1329-1340, 2007.
- ・ 日本神経治療学会治療指針作成委員会(編):標準の神経治療:めまい, 神経治療 28(2):2011.
- ・ 城倉 健:めまいとの鑑別. 日内会誌 98:1255-1262, 2009.
- ・ ト部貴夫:めまい. 日内会誌 99:2856-2861, 2010.
- ・ 東儀英夫(編):よくわかる頭痛・めまい・しびれのすべて, 永井書店, 東京, 2003.
- ・ 小松崎 篤, 他.:めまい-Vertigo, Dizziness or Else? Clin Neurosci 30(1):2012.
- ・ Ziemann AE, et al.:The amygdala is a chemosensor that detects carbon dioxide and acidosis to elicit fear behavior. Cell 139:1012-1021, 2009.

4. 動悸

【参考文献】

- ・ 金城光代, 他(編):ジェネラリストのための内科外来マニュアル. 第2版, 医学書院, 東京, 2017.
- ・ 半田俊之介, 他(監):循環器内科ゴールデンハンドブック. 第3版, 南江堂, 東京, 2014.
- ・ 小泉俊三(監訳), Paulmen PM, 他(編):テイラー10分間鑑別診断マニュアル. 第3版, メディカル・サイエンスインターナショナル, 東京, 2015.

【引用文献】

- 1) 2008年度合同研究班報告:不整脈薬物治療に関するガイドライン(2009年改訂版). http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2009_kodama_h.pdf (2019.3.28アクセス)
- 2) 2012年度合同研究班報告:心房細動治療(薬物)ガイドライン(2013年改訂版). 日内会誌 106:562-567, 2017.

- 3) Satoh T, et al.: 2016 Guidelines for the management of thyroid storm from The Japan Thyroid Association and Japan Endocrine Society (First edition). *Endocr J* 63: 1025-1064, 2016.
- 4) 日本甲状腺学会・日本内分泌学会(編): 甲状腺フリーゼ診療ガイドライン2017, 南江堂, 東京, 2017.

6. 嘔気・嘔吐

- ・ 河川 洋, 他.: 腹痛. 福井次矢, 他(編): 内科診断学第3版, 393-399, 医学書院, 東京, 2016.

7. 咯血・吐血・下血

- ・ 名尾良憲: 主要症候からみた鑑別診断学 第2版. 金芳堂, 京都, 2011.
- ・ 井上隆弘, 他.: 吐血, 下血. 診断と治療 102 (増刊号): 79-86, 2014.

8. 腹痛

- ・ 小松嘉人, 他.: 腹痛. 福井次矢, 他(編): 内科診断学 第3版. 549-553, 医学書院, 東京, 2016.
- ・ 野口善令: 臨床推論のポイント-腹痛-. 野口善令(監): カンファレンスで学ぶ臨床推論の技術, 138-139, 日経BP社, 東京, 2015.

13. 血便

- ・ 小川まい子, 他.: 血便(新鮮血). *medicina* 53 (増刊号): 345-348, 2016.
- ・ 鈴木孝良, 他.: 鮮血便「お尻から血が出ました」. *medicina* 54: 892-896, 2017.

Part 3 ▶ 検査

5. 酸塩基平衡と腎臓機能

- 1) 飯野靖彦: 酸塩基平衡. *日腎会誌* 43: 621-630, 2001.
- 2) 長谷川 元, 他.: 酸塩基平衡異常のステップバイステップ解析. *腎と透析* 83: 511-518, 2017.
- 3) 北岡建樹: 楽しくイラストで学ぶ 水・電解質の知識. 改訂2版, 南山堂, 東京, 2012.
- 4) 要 伸也: 酸塩基平衡異常. *日内会誌* 104: 938-947, 2015.
- 5) Shimizu T, et al.: Dysnatremia in Renal Failure. *Contrib Nephrol* 196: 229-236, 2018.
- 6) Seifter JL: Integration of acid-base and electrolyte disorders. *N Engl J Med* 371: 1821-1831, 2014.

6. 尿検査をどう読むか

- 1) Amlal H, et al.: Pendrin as a novel target for diuretic therapy. *Cell Physiol Biochem* 28: 521-526, 2011.

7. 画像診断

- 1) 日本腎臓学会・日本医学放射線学会・日本循環器学会(編): 腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン2012. 東京医学社, 東京, 2012.
- 2) 日本医学放射線学会医療安全管理委員会 造影剤の安全性に関する小委員会. ヨード造影剤ならびにガドリニウム造影剤の急性副作用発症の危険性低減を目的としたステロイド前投薬に関する提言. http://www.radiology.jp/member_info/safty/20170629.html (2019.3.28アクセス)

9. 呼吸機能検査

- 1) 日本呼吸器学会喘息とCOPDのオーバーラップ診断と治療の手引き2018作成委員会(編): 喘息とCOPDのオーバーラップ診断と治療の手引き2018. メディカルレビュー社, 東京, 2017.
- 2) 日本呼吸器学会COPDガイドライン第4版作成委員会(編): COPD (慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第4版. 28-29, メディカルレビュー社, 東京, 2013.
- 3) 日本呼吸器学会肺生理専門委員会(編): 臨床呼吸機能検査第8版. 30-32, メディカルレビュー社, 2016.
- 4) 日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会(監修): 喘息予防・管理ガイドライン2015. 64-65, 協和企画, 東京, 2015.
- 5) Beeh KM, et al.: The 24-h lung-function profile of once-daily tiotropium and olodaterol fixed-dose combination in chronic obstructive pulmonary disease. *Pulm Pharmacol Ther* 32 : 53-59, 2015.

Part 4 ▶ 救急診療

1. ERでの注意点

- 1) Trinka E, et al.: A definition and classification of status epilepticus - Report of the ILAE Task Force on Classification of Status Epilepticus. *Epilepsia* 56 : 1515-1523, 2015.
- 2) 菅沼和樹, 他.: 一過性意識消失を主訴とした患者に対する 頭部CTの必要性の検討. *日臨救急医学会誌* 20 : 588-591, 2017.
- 3) Headache Classification Committee of the International Headache Society: The International Classification of Headache Disorders, 3rd edition (beta version). *Cephalalgia* 33 : 629-808, 2013.
- 4) Huon LK, et al.: Vertigo and stroke: a national database survey. *Otol Neurotol* 33 : 1131-1135, 2012.
- 5) 関根和教, 他.: 大学病院におけるめまい症例の統計的検討とめまい疾患の診断基準の問題点. *日耳鼻会報* 108 : 842-849, 2005.
- 6) Bruyninckx R, et al.: Signs and symptoms in diagnosing acute myocardial infarction and acute coronary syndrome: a diagnostic meta-analysis. *Br J Gen Pract* 58 : 105-111, 2008.
- 7) Mancini ME, et al.: Part 3: Ethical Issues: 2015 American Heart Association Guidelines Update for Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care. *Circulation* 132 : S383-S396, 2015.
- 8) Vale JA: Position statement: Gastric lavage. *American Academy of Clinical Toxicology; European Association of Poisons Centres and Clinical Toxicologists. J Toxicol Clin Toxicol* 35 : 711-719, 1997.

2. 総合診療的アプローチ(迅速対応)

- ・ 一般社団法人日本蘇生協議会(監修): JRC 蘇生ガイドライン2015. 14-174, 医学書院, 東京, 2016.
- ・ 一般社団法人日本内科学会認定医制度審議会 救急委員会(編): 内科救急診療指針2016. 2-17, 総合医学社, 東京, 2016.
- ・ 東京都福祉保健局 東京都監察医務院: 異状死の届出の判断基準(医療機関向け) <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kansatsu/iryuu.html> (2019.3.28アクセス)
- ・ 相川直樹(監修), 堀進 悟, 他(編): 救急レジデントマニュアル 第5版. 22-33, 医学書院, 東京, 2013.

3. 中毒

- ・ 上條吉人(執筆), 相馬一玄(監修): 臨床中毒学. 医学書院, 東京, 2009.
- ・ 上條吉人(著), 相馬一玄(監修): 急性中毒診療レジデントマニュアル 第2版, 医学書院, 東京, 2012.

4. 小児科救急

- 1) 宮坂勝之(編訳): PALS スタディガイド. 小児二次救命処置の基礎と実践: 日本版, 1-59, エルゼビア・ジャパン, 東京, 2008.
- 2) 日本小児アレルギー学会(作成). 荒川浩一, 他(監修): 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2017, 142-161, 協和企画, 東京, 2017.
- 3) 熱性けいれん診療ガイドライン策定委員会(編). 日本小児神経学会(監修): 熱性けいれん診療ガイドライン2015. 診断と治療社, 東京, 2015.
- 4) 小児急性脳症診療ガイドライン策定委員会(編). 日本小児神経学会(監修): 小児急性脳症診療ガイドライン2016. 診断と治療社, 東京, 2016.

5. 整形外科的処置

- 1) 中村利孝, 他(監修). 井樋栄二, 他(編): 標準整形外科学第13版. 762. 医学書院, 東京, 2016.
- 2) 織田弘美(編): 整形外科外来勤務ハンドブック. 南江堂, 東京, 2007.

Part 5 ▶ ICU・HCU 管理(病棟管理)

1. 急性呼吸管理

- ・ 杉山幸比古, 他(編): 呼吸器疾患最新の治療2016-2018. 南江堂, 東京, 2016.
- ・ 日本呼吸器学会(編): 新呼吸器専門医テキスト. 南江堂, 東京, 2015.

2. 慢性呼吸管理

【引用文献】

- 1) 日本呼吸器学会 肺生理専門委員会 在宅呼吸ケア白書 ワーキンググループ(編): 在宅呼吸器ケア白書2010. メディカルレビュー社, 東京, 2010.

【参考文献】

- ・ 杉山幸比古, 他(編): 呼吸器疾患最新の治療2016-2018. 南江堂, 東京, 2016.
- ・ 日本呼吸器学会(編): 新呼吸器専門医テキスト. 南江堂, 東京, 2015.

4. 重症感染症

- 1) 西田 修, 他.: 日本版敗血症診療ガイドライン2016. 日集中医誌 24 (Suppl 2): 1-232, 2017.
- 2) Kumar A, et al.: Duration of hypotension before initiation of effective antimicrobial therapy is the critical determinant of survival in human septic shock. Crit Care Med 34: 1589-1596, 2006.
- 3) Ferrer R, et al.: Empiric antibiotic treatment reduces mortality in severe sepsis and septic shock from the first hour: results from a guideline-based performance improvement program. Crit Care Med 42: 1749-1755, 2014.
- 4) Gaieski DF, et al.: Impact of time to antibiotics on survival in patients with severe sepsis or septic shock in whom early goal-directed therapy was initiated in the emergency department. Crit Care Med 38: 1045-1053, 2010.
- 5) Landry DW, et al.: The pathogenesis of vasodilatory shock. N Engl J Med 345: 588-595, 2001.

- 6) Annane D, et al. : Norepinephrine plus dobutamine versus epinephrine alone for management of septic shock : a randomised trial. *Lancet* 370 : 676-684, 2007.
- 7) Mahmoud KM, et al. : Norepinephrine supplemented with dobutamine or epinephrine for the cardiovascular support of patients with septic shock. *Indian J Crit Care Med* 16 : 75-80, 2012.
- 8) Holmes CL, et al. : Physiology of vasopressin relevant to management of septic shock. *Chest* 120 : 989-1002, 2001.
- 9) Morelli A, et al. : Continuous terlipressin versus vasopressin infusion in septic shock (TERLIVAP) : a randomized, controlled pilot study. *Crit Care* 13 : R130, 2009.
- 10) Romero-Bermejo FJ, et al. : Sepsis-induced cardiomyopathy. *Curr Cardiol Rev* 7 : 163-183, 2011.
- 11) Marik PE, et al. : Recommendations for the diagnosis and management of corticosteroid insufficiency in critically ill adult patients : consensus statements from an international task force by the American College of Critical Care Medicine. *Crit Care Med* 36 : 1937-1949, 2008.
- 12) Sprung CL, et al. : Hydrocortisone therapy for patients with septic shock. *N Engl J Med* 358 : 111-124, 2008.
- 13) Zarbock A, et al. : Effect of Early vs Delayed Initiation of Renal Replacement Therapy on Mortality in Critically Ill Patients With Acute Kidney Injury : The ELAIN Randomized Clinical Trial. *JAMA* 315 : 2190-2199, 2016.
- 14) Gaudry S, et al. : Initiation Strategies for Renal-Replacement Therapy in the Intensive Care Unit. *N Engl J Med* 375 : 122-133, 2016.
- 15) Hsu JT, et al. : Efficacy of gabexate mesilate on disseminated intravascular coagulation as a complication of infection developing after abdominal surgery. *J Formos Med Assoc* 103 : 678-684, 2004.
- 16) 日本集中治療医学会重症患者の栄養管理ガイドライン作成委員会 : 日本版重症患者の栄養療法ガイドライン. *日集中医誌* 23 : 185-281, 2016.
- 17) Acute Respiratory Distress Syndrome Network. : Ventilation with lower tidal volumes as compared with traditional tidal volumes for acute lung injury and the acute respiratory distress syndrome. *N Engl J Med* 342 : 1301-1308, 2000.

5. 抗菌薬

- ・ 青木 眞(著) : レジデントのための感染症診療マニュアル 第3版. 医学書院, 東京, 2015.
- ・ 大曲貴夫(著) : ホントのところがよくわかる感染症診療のベーシック・アプローチ Q/A形式で解き明かす臨床のコツ. 文光堂, 東京, 2007.
- ・ 岡 秀昭(著) : 感染症プラチナマニュアル 2017. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2017.
- ・ 感染症診療の手引き編集委員会 : 感染症診療の手引き—正しい感染症診療と抗菌薬適正使用を目指して. 新訂第3版, シーニュ, 東京, 2017.
- ・ David N, et al. : *The Sanford Guide to Antimicrobial Therapy* 2018. Antimicrobial Therapy, 2018.
- ・ *The Johns Hopkins POC-IT Guide* (latest update in 2017) © 2000-2017, The Johns Hopkins University.

6. 高血圧(高血圧緊急症)

- 1) Kaplan NM : Hypertension Emergencies. In : Kaplan's Clinical Hypertension. 11 th, ed, Wolters Kluwer, Philadelphia, 263-274, 2015.
- 2) Whelton PK, et al. 2017 ACC/AHA/AAPA/ABC/ACPM/AGS/APhA/ASH/ASPC/NMA/PCNA guideline for the prevention in adults, a report of the American College of Cardiology/ American Heart Association Task Force on Clinical Practice Guidelines. Hypertension 71 : e13-e115, 2018. PMID : 29133356.
- 3) 日本産婦人科学会, 日本産婦人科医会. 産婦人科診療ガイドラインー産科編 2017. http://www.jsog.or.jp/activity/pdf/gl_sanka_2017.pdf (2019.3.28 アクセス)
- 4) Vaughn CJ, et al. : Hypertensive emergencies. Lancet 356:411-417, 2000.
- 5) 日本高血圧学会 高血圧治療ガイドライン2014. https://www.jpnh.jp/data/jsh2014/jsh2014v1_1.pdf (2019.3.28アクセス)
- 6) Nakamoto H, et al. : Nifedipine and arotinolol in combination for accelerated-malignant hypertension : results of one year follow-up. Hypertens Res 22 : 75-80, 1999.
- 7) Suzuki H, et al. : Control of blood pressure and prevention of end-organ damage in patients with accelerated hypertension by combination with arotinolol and extended release nifedipine. Hypertens Res 23 : 159-166, 2000.

7. 副腎皮質ステロイド

- 1) 3学会合同ARDS診療ガイドライン2016作成委員会(編) : ARDS診療ガイドライン2016. <https://www.jsicm.org/ARDSGL/ARDSGL2016.pdf> (2019.3.28 アクセス)
- 2) 日本リウマチ学会(編) : 関節リウマチ診療ガイドライン2014. メディカルレビュー社, 大阪, 2014.
- 3) 日本内分泌学会HP : http://square.umin.ac.jp/endocrine/ippan/03_disease/07_10.html (2019.3.28 アクセス)
- 4) 日本皮膚科学会 : 全身性強皮症 診断基準・重症度分類・診療ガイドライン. <https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/126101831.pdf> (2019.3.28 アクセス)
- 5) 日本呼吸器学会 : 特発性間質性肺炎の診断・治療ガイドライン. https://www.jrs.or.jp/quicklink/journal/nopass_pdf/043030179j.pdf (2019.3.28 アクセス)
- 6) 日本アレルギー学会 喘息ガイドライン専門部会(監修) : 喘息予防・管理ガイドライン2015. 協和企画, 東京, 2015.
- 7) Kumeta Y, et al. : [A survey of perioperative bronchospasm in 105 patients with reactive airway disease]. Masui 44 (3) : 396-401, 1995.
- 8) Woods BD, et al. : Perioperative considerations for the patient with asthma and bronchospasm. Br J Anaesth 103 : 57-65, 2009.
- 9) Wakim JH, et al. : Anesthetic implications for patients receiving exogenous corticosteroids. AANA J 74 (2) : 133-139, 2006.
- 10) 日本呼吸器学会 COPDガイドライン第4版作成委員会(編) : COPD (慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第4版. メディカルレビュー社, 大阪, 2013.

8. 糖尿病緊急症の初期対応

- 1) Peters AL, et al. : Euglycemic Diabetic Ketoacidosis : A Potential Complication of Treatment With Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibition. *Diabetes Care* 38 : 1687-1693, 2015.
- 2) Kitabchi AE, et al. : Hyperglycemic crises in adult patients with diabetes. *Diabetes Care* 32 : 1335-1343, 2009.

9. 深部静脈血栓症の予防

- 1) Horlander KT, et al. : Pulmonary embolism mortality in the United States, 1979-1998 : an analysis using multiple-cause mortality data. *Arch Intern Med* 163:1711-1717, 2003.
- 2) Caprini JA : Risk assessment as a guide for the prevention of the many faces of venous thromboembolism. *Am J Surg* 199 (1 Suppl) : S3-10, 2010.
- 3) Lauzier F, et al. : Risk factors and impact of major bleeding in critically ill patients receiving heparin thromboprophylaxis. *Intensive Care Med* 39:2135-2143, 2013.
- 4) André C, et al. : Prevention of deep venous thrombosis and pulmonary embolism following stroke : a systematic review of published articles. *Eur J Neurol* 14:21-32, 2007.

Part 6 ▶ 腎不全と急性血液浄化

1. 慢性腎不全患者の診療

- ・ 日本腎臓学会(編) : エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2013. 東京医学社, 東京, 2013.
- ・ 日本腎臓学会(編) : CKD診療ガイド2012. *日腎会誌* 54 : 1031-1189, 2012.
- ・ 小松康宏(編) : 慢性腎臓病(CKD)保存期腎不全へのアプローチ. 腎臓内科ワリニカルスタンダード, 文光堂, 東京, 466-483, 2016.
- ・ 今井圓裕(編著) : 慢性腎臓病の診断と管理. 腎臓内科レジデントマニュアル 改訂第7版, 診断と治療社, 東京, 93-105, 2015.
- ・ KDIGO Blood Pressure Work Group. KDIGO Clinical Practice Guideline for the Management of Blood pressure in Chronic Kidney Disease. *Kidney Int* 2 (Suppl) : 337-414, 2012.
- ・ 日本腎臓学会(編) : 慢性腎臓病に対する食事療法基準2014年度版. *日腎会誌* 56 : 553-599, 2014.
- ・ Hara H, et al. : Protein Energy Wasting and Sarcopenia in Dialysis Patients. *Contrib Nephrol* 196 : 243-249, 2018.
- ・ Costello-Boerrigter LC, et al. : Vasopressin-2-receptor antagonism augments water excretion without changes in renal hemodynamics or sodium and potassium excretion in human heart failure. *Am J Physiol Renal Physiol* 290 : F273-278, 2006.
- ・ 黒川 清(監修), 和田健彦, 他(監訳) : 第7章カリウムバランス異常. 体液異常と腎臓の病態生理第3版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2015

2. 緊急透析適応

- 1) Tolwani A. : Continuous renal-replacement therapy for acute kidney injury. *N Engl J Med* 367 : 2505-2514, 2012.
- 2) AKI (急性腎障害)診療ガイドライン作成委員会(編) : AKI (急性腎障害)診療ガイドライン2016. *日腎会誌* 59 : 419-533, 2017.

3. 急性血液浄化

- 1) 野入英世, 他(編著): CRRT ポケットマニュアル第2版, 医歯薬出版, 東京, 2015.
- 2) 大野博司: ICU/CCUの急性血液浄化療法の考え方, 使い方. 中外医学社, 東京, 2014.
- 3) AKI (急性腎障害)診療ガイドライン作成委員会(編): AKI (急性腎障害)診療ガイドライン2016, 東京医学社, 東京, 2016.
- 4) 岡田浩一: 透析療法(HDとHDF, CHD, CHDFなど). 日内会誌 99:1013-1019, 2010.
- 5) Uchino S, et al.: Discontinuation of continuous renal replacement therapy: a post hoc analysis of a prospective multicenter observational study. Crit Care Med 37: 2576-2582, 2009.

4. 急性期透析管理

- 1) 特定非営利活動法人日本急性血液浄化学会(編): 日本急性血液浄化学会標準マニュアル. 医学図書出版, 2013.
- 2) 平田純生, 他(編著): 透析患者への投薬ガイドブック改訂3版. じほう, 2017.

Part 7 ▶ その他

2. 認知症

- 1) 認知症疾患診療ガイドライン作成委員会(編), 日本神経学会(監): 認知症疾患 診療ガイドライン2017, 94-96, 医学書院, 東京, 2017.
- 2) 認知症疾患診療ガイドライン作成委員会(編), 日本神経学会(監): 認知症疾患 診療ガイドライン2017, 118-120, 医学書院, 東京, 2017.
- 3) 認知症疾患診療ガイドライン作成委員会(編), 日本神経学会(監): 認知症疾患 診療ガイドライン2017, 323, 医学書院, 東京, 2017.
- 4) 認知症疾患診療ガイドライン作成委員会(編), 日本神経学会(監): 認知症疾患 診療ガイドライン2017, 67-70, 医学書院, 東京, 2017.

3. リハビリテーション導入

- 1) 上付正博, 他.: 包括的リハビリテーションにおけるリハ科医の役割. Jpn J Rehabil Med 47: 119-204, 2010.
- 2) 一般社団法人 日本言語聴覚士教会HPより引用. <https://www.japanslht.or.jp> (2019.3.28アクセス)
- 3) 医学通信社(編): Hリハビリテーション: 診療点数早見表, 542-588, 医学通信社, 東京, 2018.
- 4) 前田真治: リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン. Jpn J Rehabil Med 44: 384-390, 2007.

4. 精神疾患, 不眠

- 1) 融 道男, 他(監訳): ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン. 医学書院, 東京, 2007.
- 2) American Psychiatric Association (著), 高橋三郎, 他(訳): DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引, 医学書院, 東京, 2003.
- 3) 大熊輝雄(原著), 「現代臨床精神医学」第12版改訂委員会(編): 現代臨床精神医学第12版, 金原出版, 東京, 2013.
- 4) 厚生労働省健康局: 健康づくりのための睡眠指針2014. 2014. <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000047221.pdf> (2019.3.28アクセス)

5. 緩和医療

- ・ 日本医師会(監修)：がん緩和ケアガイドブック. 青海社, 東京, 2010.
- ・ 日本緩和医療学会(編)：専門家をめざす人のための緩和医療学. 南山堂, 東京, 2014.
- ・ 余宮さのみ：ここが知りたかった緩和ケア. 南江堂, 東京, 2011.
- ・ 余宮さのみ：がん疼痛緩和の薬がわかる本. 医学書院, 東京, 2013.

7. 人生の最終段階の医療とDNAR

- 1) 厚生労働省：人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン, 2007 (2015 改訂). <https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000079906.pdf> (2019.3.28 アクセス)
- 2) 日本集中治療医学会倫理委員会：DNAR (Do Not Attempt Resuscitation)の考え方. 日集中医誌 24 : 210-215, 2017.
- 3) 清水哲郎：4. 事前指示を人生の最終段階に関する意思決定プロセスに活かすために. 日老医誌 52 : 224-232, 2015.

Part 8 ▶ 入院管理とチーム医療

4. がん患者の看護とケア

- 1) 国立がん研究センター内科レジデント(編)：がん診療レジデントマニュアル第7版. 医学書院, 東京, 12-17, 2016.
- 2) 国立がん研究センター中央病院看護部(編)：がん化学療法看護スキルアップテキスト. 南江堂, 東京, 7-15, 2009.
- 3) 勝保 範之, 他(編)：がん治療薬まるわかりBOOK. 照林社, 270-292, 2015.
- 4) 日本癌治療学会(編)：制吐薬適正使用ガイドライン. 金原出版, 東京, 2015.
- 5) 濱口 恵子, 他(編)：がん化学療法ケアガイド改訂版. 中山書店, 東京, 2012.

5. 栄養管理

- 1) Detsky AS, et al. : What is subjective global assessment of nutritional status?. JPEN 11 : 8-13, 1987.
- 2) 井上善文, 他. : SGA (主観的包括的栄養評価)と ODA (客観的データ栄養評価)－ ODAを造語した経緯とその意義－. 臨床栄養 109 : 883-887, 2006.
- 3) 井上善文 : ODAの必須項目とは. 臨床栄養 110 : 657-661, 2007.
- 4) 馬場忠雄, 他. : Bacterial translocationの基礎と臨床. 日消誌 100 : 957-964, 2003.
- 5) Hosoda N, et al. : Structural and functional alterations in the gut of parenterally or enterally fed rats. J Surg Res 47:129-133, 1989.
- 6) Harris JA, et al. : A Biometric Study of Human Basal Metabolism. Proc Natl Acad Sci USA 4 : 370-373, 1918.
- 7) 日本静脈経腸栄養学会(編)：静脈経腸栄養ガイドライン第3版. http://minds.4.jcqhc.or.jp/minds/PEN/Parenteral_and_Enterol_Nutrition.pdf (2019.3.28 アクセス)
- 8) Rosmarin DK, et al. : Hyperglycemia associated with high, continuous infusion rates of total parenteral nutrition dextrose. Nutr Clin Pract 11:151-156, 1996.
- 9) 厚生労働省 日本人の食事摂取基準 2015. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/syokuji_kijyun.html (2019.3.28 アクセス)
- 10) 柳町 幸, 他. : 慢性肝炎の食事療法における脂肪摂取のあり方. 肝胆膵 64 : 893-899, 2012.

- 11) 福田能啓, 他.: クローン病の維持療法時の脂肪摂取と累計再燃率. 厚生省特定疾患難治性炎症性腸疾患障害調査研究班 平成10年度研究報告書: 69-70, 1999.
- 12) Adolph M, et al.: Serum phospholipid fatty acids in severely injured patients on total parenteral nutrition with medium chain/long chain triglyceride emulsions. *Ann Nutr Metab* 39: 251-260, 1995.
- 13) 真弓俊彦(編): *Surviving ICU*シリーズ. 重症患者の治療の本質は栄養管理にあった. 羊土社, 東京, 2014.
- 14) Iriyama K, et al.: Elimination rate of fat emulsion particles from plasma in Japanese subjects as determined by a triglyceride clamp technique. *Nutrition* 12: 79-82, 1996.
- 15) Puder M, et al.: Parenteral fish oil improves outcomes in patients with parenteral nutrition-associated liver injury. *Ann Surg* 250: 395-402, 2009.
- 16) 外岡 亨, 他.: 非蛋白熱量/窒素(NPC/N)比の設定とアミノ酸輸液製剤. *臨床栄養* 126(臨時増刊号): 838-843, 2015.
- 17) 日本腎臓病学会(編): *エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2013*. https://www.jsn.or.jp/guideline/pdf/CKD_evidence2013/all.pdf (2019.3.28アクセス)
- 18) 厚生労働省難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に関する調査研究班(編): *エビデンスに基づくネフローゼ症候群診療ガイドライン2014*. <http://minds4.jcqhc.or.jp/minds/neph/neph2014.pdf> (2019.3.28アクセス)
- 19) 日本透析医学学術委員会ガイドライン作成小委員会栄養問題検討ワーキンググループ: *慢性透析患者の食事療法基準*. *透析会誌* 47: 287-291, 2014.
- 20) 日本消化器病学会(編): *肝硬変診療ガイドライン2015*. https://www.jsge.or.jp/files/uploads/kankohen2_re.pdf (2019.3.28アクセス)
- 21) *Nutrition Support for Adults: Oral Nutrition Support, Enteral Tube Feeding and Parenteral Nutrition. Clinical Guideline 23:2006*.
- 22) 樋口典英, 他.: 総合ビタミン配合型高カロリー輸液キット製剤導入に伴う問題点の調査. *日病薬誌* 41: 1245-1248, 2005.
- 23) 岡田 正, 他.: 長期高カロリー輸液施行例における微量元素製剤(TE-5)の臨床的効果. *薬理と治療* 17: 3655-3673, 1989.

Part 9 ▶ 地域医療連携

2. 在宅診療

- 1) 内閣府: 介護保険制度に関する世論調査(平成22年9月). <https://survey.gov-online.go.jp/h22/h22-kaigohoken/index.html> (2019.3.28アクセス)
- 2) 厚生労働省: 受療行動調査(平成26年). <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jyuryo/14/index.html> (2019.3.28アクセス)

3. 地域包括連携

- 1) 筑後一郎: 地域包括ケアシステムの課題と展望. *川崎医療福祉学会誌* 26: 79-83, 2016.
- 2) 松繁卓哉: 地域包括ケアシステムにおける自助・互助の課題. *保健医療科学* 61: 113-118, 2012.
- 3) 有賀 徹: わが国の医療提供の仕組みと医療者の未来. *昭和学士会誌* 76: 148-163, 2016.
- 4) 大学病院を考える議員連盟及び文部科学省・厚生労働省に要望書. 2008. <http://www.univ-hosp.net> (2019.3.28アクセス)
- 5) 田中 滋: 地域包括ケア概念の展開と実践 医療との関わり. *医療と社会* 24: 330-338, 2015.

- 6) 長江弘子：エンド・オブ・ライフケアの概念とわが国における研究課題．保健医療社会学論集 25：17-23, 2014.

4. 重症心身障害者を取り巻く医療

- 1) 船戸 正久, 他.: 在宅移行中間施設としての療育施設の役割. 日小児会誌 121: 993-999, 2017.
- 2) 坪内 祥子, 他.: 医療的ケアを要する障害児(者)の在宅調査. 日小児会誌 121: 1819-1826, 2017.
- 3) 伊藤 祐史, 他.: 重度肢体不自由児の救急外来受診と入院医療. 日小児会誌 120: 1356-1363, 2016.

コラム

発熱のキホン

- ・ 金城光代, 他(編): ジェネラリストのための内科外来マニュアル第2版, 医学書院, 東京, 2017.
- ・ 石井義洋(著): 卒後10年目 総合内科医の診断術. 中外医学社, 東京, 2015.
- ・ 岡田 定(編): デキレジ-聖路加チーフレジデントがあなたをデキるレジデントにします-STEP1. 医学出版, 東京, 2011.

私の診察④ ～好酸球性血管浮腫～

- 1) Gleich GJ, et al.: Episodic angioedema associated with eosinophilia. *N Engl J Med* 310: 1621-1626, 1984.
- 2) Matsuda M, et al.: Nonepisodic angioedema with eosinophilia: a report of two cases and a review of the literature. *Clin Rheumatol* 25: 422-425, 2006.
- 3) Nagashima T, et al.: Polyarthritides induced by nonepisodic angioedema associated with eosinophilia. *Rheumatol Int* 28: 1065-1066, 2008.
- 4) Nakachi S, et al.: Eleven cases of angioedema with eosinophilia treated in a single hospital in Japan. *Allergol Int* 61: 259-263, 2012.

結核診察

- 1) 結核研究所疫学情報センター. 2017年結核年報速報. <http://www.jata.or.jp/rit/ekigaku/toukei/nenpou/> (2019.3.28アクセス)
- 2) 日本結核病学会(編): 結核診察ガイドライン改訂第3版. 南江堂, 東京, 2015.
- 3) 青木 眞(著): レジデントのための感染症診察マニュアル第3版. 医学書院, 東京, 2015.

サルコイドーシスとIgG 4 関連疾患

- 1) 松井祥子: IgG4関連疾患. 日サ会誌 35: 47-49, 2015.
- 2) Miyake K, et al.: Peripheral CD4+Tcells showing a Th2 phenotype in a patient with Mikulicz's disease associated with lymphadenopathy and pleural effusion. *Mod Rheumatol* 18: 86-90, 2008.
- 3) Tanaka A, et al.: Th2 and regulatory immune reactions contribute to IgG4 production and the initiation of Mikulicz disease. *Arthritis Rheum* 64: 254-263, 2012.
- 4) Zen Y, et al.: Th2 and regulatory immune reactions are increased in immunoglobulin G4-related sclerosing pancreatitis and cholangitis. *Hepatology* 45: 1538-1546, 2007.

- 5) Müller T, et al. : Increased T-helper 2 cytokines in bile from patients with IgG4-related cholangitis disrupt the tight junction-associated biliary epithelial cell barrier. *Gastroenterology* 144 : 1116-1128, 2013.
- 6) Yamamoto H, et al. : Cytokine profiles in the BAL fluid of IgG4-related respiratory disease compared with sarcoidosis. *ERJ Open Res* 1 : pii : 00009-2015, 2015.
- 7) Izuwara K, et al. : Periostin in allergic inflammation. *Allergol Int* 63 : 143-151, 2014.
- 8) Conway SJ, et al. : The role of periostin in tissue remodeling across health and disease. *Cell Mol Life Sci* 71 : 1279-1288, 2014.
- 9) Noguchi T, et al. : Periostin upregulates the effector functions of eosinophils. *J Allergy Clin Immunol* 138 : 1449-1452, 2016.

造影剤アレルギー

- 1) 日本医学放射線学会 : 放射線診療事故防止のための指針. http://www.radiology.jp/content/files/jikoboushi_shishin04.pdf (2019.3.28アクセス)

感染対策(好中球減少時)

- 1) Infectious Diseases Society of America : Clinical practice guideline for the use of antimicrobial agents in neutropenic patients with cancer : 2010 update by the infectious diseases society of america. *Clin Infect Dis* 52 : e56-93. doi : 10.1093/cid/cir073. 2011.
- 2) 日本臨床腫瘍学会(編) : 発熱性好中球減少症(FN)診療ガイドライン. 南江堂, 東京, 2012. <https://minds.jcqh.or.jp/n/med/4/med0145/G0000520/0001> (2019.3.28アクセス)
- 3) Thom KA, et al. : Infection prevention in cancer center. *Clin Infect Dis* 57 : 579-585, 2013.
- 4) Baden LR, et al. : NCCN guideline : Prevention and treatment of cancer-related infections. *J Natl Compr Canc Netw* 10 : 1412-1445, 2012.
- 5) Tsutsumi Y, et al. : Hepatitis B virus reactivation with a rituximab-containing regimen. *World J Hepatol* 7 : 2344-2351, 2015.
- 6) Reddy KR, et al. : American Gastroenterological Association Institute guideline on the prevention and treatment of hepatitis B virus reactivation during immunosuppressive drug therapy. *Gastroenterology* 148 : 215-219, 2015.
- 7) EASL 2017 Clinical Practice Guidelines on the management of hepatitis B virus infection. *J Hepatol* 67 : 370-398, 2017.
- 8) Jiang X, et al. : Prophylaxis and Treatment of Pneumocystis jiroveci Pneumonia in Lymphoma Patients Subjected to Rituximab-Contained Therapy : A Systemic Review and Meta-Analysis. *PLoS One* 10 : e0122171, 2015.
- 9) Rubin LG, et al. : 2013 IDSA clinical practice guideline for vaccination of the immunocompromised host. *Clin Infect Dis* 58 : 309-318, 2014.

高齢者の投薬注意点

- 1) 日本老年医学会(編) : 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015. メジカルビュー社, 東京, 2015
- 2) American Geriatrics Society 2012 Beers Criteria Update Expert Panel. American Geriatrics Society updated Beers Criteria for potentially inappropriate medication use in older adults. *J Am Geriatr Soc* 60 : 616-631, 2012.

好酸球増多症

- ・ 永田 真：好酸球の機能とその調節機構. G.I. Res 24 : 147-154, 2016.
- ・ 高久史麿, 他(訳)：ワシントンマニュアル 第13版. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2015.

経管・経腸栄養

- ・ 日本静脈経腸栄養学会(編)：静脈経腸栄養ガイドライン 第3版. 照林社, 東京, 2013.